

平素より大変お世話になっております。

粒子線医療センターだより第4号をお届けいたします。

第4号では当院にご紹介いただいた肺がんとリンパ節転移の症例をご紹介しますとともに、呼吸器外科専門医の立場から北村嘉隆先生(兵庫県立がんセンター呼吸器外科)のコメントも掲載しました。

原発性肺がんに対する根治治療は外科切除がベストです。しかし根治切除が不可能または非常に困難な症例は少なくありません。具体的には、COPD や肺線維症により著しく呼吸機能が低下したり、根治切除のためには片肺全摘が必要な症例に対する治療は難渋します。

兵庫県立粒子線医療センターでは、長年、呼吸機能が低下した肺がんに対する陽子線治療、重粒子線治療を行い実績を上げています。肺がんや縦隔、肺門等のリンパ節転移の治療に難渋されておられる皆様のお役に立てれば幸いです。



院長 沖本 智昭

平素より大変お世話になっております。

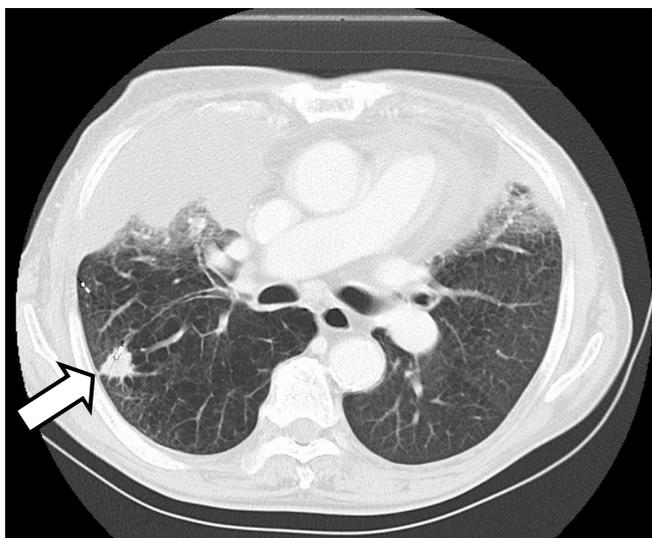
兵庫県立がんセンター呼吸器外科では、原発性肺がんを中心に、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫などの胸部悪性疾患を対象として、外科的な診断・治療と術前術後の化学療法を行っています。当科が開設して以来、2018年までの35年間で手術総数は8,000例を越えるまでになりました。また2009年からは段階的に完全胸腔鏡手術を導入し、2018年は原発性肺がん手術の84%を完全胸腔鏡手術で施行致しました。

原発性肺がんに対する治療は、手術、放射線治療、薬物治療の3つを中心に行います。最近の傾向の1つとして、高齢化の影響も伴い、肺がんの治療歴のある患者さんが2回目の、中には3回以上も新しい肺がんを発症して治療を必要とする機会が以前より増えてきました。また、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬といった薬物療法の目覚ましい進歩により、従来は局所治療(手術や放射線治療)の適応となることが殆どなかった4期の進行肺がんでも、最近では局所治療を行う機会が少ないながらも出てきました。

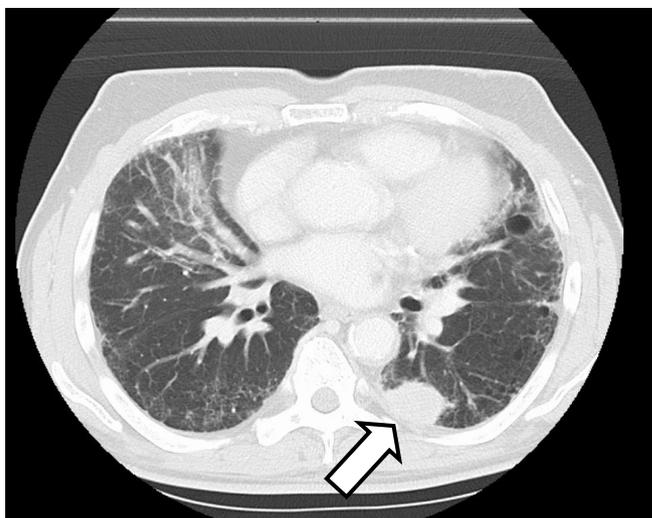
兵庫県立がんセンターでは、毎週月曜日に呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科、放射線診断科、病理診断科による呼吸器合同カンファレンスを行っており、そこでは粒子線医療センターとの合同テレビカンファレンスを行うことが可能となっております。肺がんの進行度や患者さんの体調や臓器機能に合わせて、可能な限り肺がんの根治を目指した治療を検討しております。しかし先述のように第2、第3の肺がんを発症した患者さんや、肺機能が悪い患者さんでは、手術や通常の放射線治療での治療が困難な場合もありますが、粒子線治療であれば肺がん根治と肺機能温存を両立した治療を目指せることもあります。以前より粒子線医療センターと密に連携していたことから、診療科や病院間の垣根をこえて粒子線治療の相談を出来ることが当センター呼吸器グループの強みです。



兵庫県立がんセンター
呼吸器外科 北村嘉隆



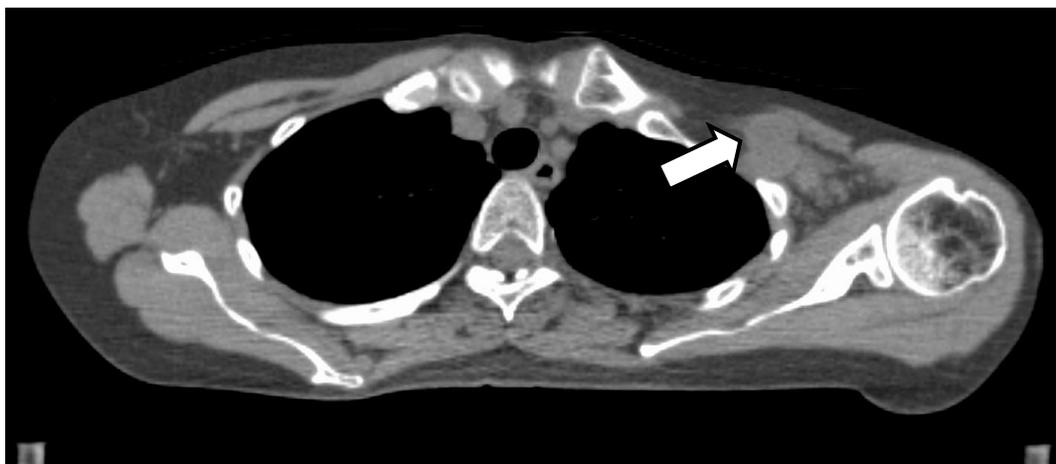
近医にて COPD 経過観察中に右上葉の腫瘍影の増大を指摘された。肺気腫や誤嚥性肺炎を繰り返していることから生検のリスクが高く、画像所見より臨床的肺癌と診断された。手術、定位放射線治療の適応も肺機能のため難しく、粒子線治療目的で当院紹介となった。経動脈マーカ―留置術施行し、重粒子線 69.6GyE/12fr で治療となった。



気胸の検査の際に偶発的に左肺結節が発見され、近医でフォローを行っていたが増大傾向を認めた。気管支鏡検査を施行したがアプローチ困難のため、画像所見より臨床肺癌と診断された。重度の間質性肺炎から手術や定位放射線治療も難しいため、粒子線治療目的で当院紹介となった。経動脈マーカ―留置術施行し、重粒子線 69.6GyE/12fr で治療となった。



子宮平滑筋肉腫のため子宮全摘術、両側付属器摘出術、術後化学療法が施行されたが、右外腸骨領域でリンパ節の増大を認めた。高齢であることや外腸骨血管領域との固着が疑われたため切除は難しく、粒子線治療目的で当院紹介となった。ゴアテックススペーサー留置後に重粒子線 57.6GyE/16fr で治療となった。



浸潤性乳管癌のため左側乳房温存手術、腋窩リンパ節郭清、術後化学放射線療法が施行されたが、左鎖骨下リンパ節の増大を認めた。鎖骨下静脈への浸潤が疑われ切除は困難と判断された。鎖骨下領域は初回治療時の照射野に含まれていないため当院紹介となり、重粒子線 57.6GyE/16fr で治療となった。

陽子線治療・重粒子線治療の診療区分について

- A. 陽子線治療及び重粒子線治療が保険診療で施行可能な疾患
手術による根治的な治療法が困難である限局性の骨軟部腫瘍、頭頸部悪性腫瘍（口腔、咽喉頭の扁平上皮癌を除く。）
限局性及び局所進行性前立腺がん（転移を有するものを除く。）
- B. 陽子線治療のみが保険診療で施行可能な疾患
小児腫瘍（限局性の固形悪性腫瘍に限る。）
- C. 陽子線治療が先進医療で施行可能な疾患
頭頸部腫瘍（脳腫瘍を含む。）、肺・縦隔腫瘍、消化管腫瘍、肝胆膵腫瘍、泌尿器腫瘍、乳腺・婦人科腫瘍又は転移性腫瘍（いずれも根治的な治療法が可能なものに限る。）
- D. 重粒子線治療が先進医療で施行可能な疾患
肺・縦隔腫瘍、消化管腫瘍、肝胆膵腫瘍、泌尿器腫瘍、乳腺・婦人科腫瘍又は転移性腫瘍（いずれも根治的な治療法が可能なものに限る。）
- E. 陽子線治療及び重粒子線治療が自由診療で施行可能な疾患
上記の保険診療、先進医療で施行できない疾患だが、当院、兵庫県立がんセンター、兵庫県立リハビリテーション西播磨病院、神戸大学附属病院、IHI 播磨病院、津山中央病院の医師による協議（カンサーボードと呼ばれています。）で認められた疾患

ご紹介の手順

当センターのHPより、疾患ごとの様式をダウンロードし FAX で送信ください。



●セカンドオピニオン

医療機関・患者様のいずれでも予約ができます。

HPから様式をダウンロードし、FAX送信していただくか、お電話でも予約可能です。

●メール相談

粒子線治療の適応についてのご相談を随時受け付けております。

詳しくはHPをご参照ください。

兵庫県立粒子線医療センター

〒679-5165

兵庫県たつの市新宮町光都 1-2-1

電話番号:0791-58-0100

FAX 番号:0791-58-2600

<https://www.hibmc.shingu.hyogo.jp>